

ニュージーランドのCovid-19対策

New Zealand's Covid-19 Policies

ニュージーランド (NZ) では2020年10月18日までに二度Covid-19の国内感染が起きたが、ジャシンダ・アダーン首相の率いる労働党内閣の対応が迅速で、短期間で国内感染をゼロにしたので、国際保健機関 (WHO) をはじめ、多くの国から賞讃されている。そこでなぜロックダウンに成功したか、簡略に報告したい。

NZで最初の感染者が出たのは2月28日、イラン旅行から帰った60代の女性で、2件目は3月4日イタリア旅行から戻った30代女性。以後海外からの帰国者を通して、国内の感染が広がった。そこで政府は3月19日、NZ国籍や永住権を持つ者以外の入国を禁止。また警戒レベルを4段階にわけ、最初は緩いレベル2だったが、感染者が急増したので、政府は急遽戦略を感染抑制から、ウイルス排除に切り替え、3月23日、6人以上の集まりを禁じる警戒レベル3にすると通告。だが感染者の増加はとまらず、アダーン首相と厚生省長官で公共衛生の専門家アシュリー・ブルムフィールド博士は急遽記者会見を開き、3月26日から国全体を一番厳しい警戒レベル4にすると発表。レベル4では同居家族や同じ住居に居住している者以外との交流は禁止。同居していなければ、自分の子供や孫との接触も禁止。買い物も家族の1人が担当し、リスクの高い65才以上は買い物も隣人や友人に依頼するよう指示した。また店は、スーパーマーケットと薬局だけ営業を許可し、他の店は総て閉鎖。映画館やスポーツのイベントも禁止。学校も小学校から大学まで総て閉鎖となった。また市民が最低限の暮らしを維持するのに必要な仕事に従事しているスーパーや薬局の店員、医者や看護婦等の医療関係者などは仕事を続けることができたが、他の職場は

総て閉鎖。人出の多い公園や海岸に行く事も禁止。海外からの帰国者は政府の指定したホテルで2週間隔離されたが、外出する者が出たため、ホテルの警備には兵士が配属され、禁を破って外出した者には罰金または拘束刑が課せられることになった。

そういう厳しいロックダウンの結果、大規模な感染はおさまり、警戒レベルは緩和され、6月2日から8月10日迄の102日間、コミュニティにおける感染者はゼロとなった。残念ながら老人ホームにも感染が広がったため、22名の死者が出た。

ところが8月11日オークランドで一家4名の感染者がでて、同市内の教会の一つでも、信者の間に感染が広がった。そこで政府はオークランドだけロックダウンにしたが、二つのクラスター以外には感染が広がらなかったため、オークランドのロックダウンも10月8日に終わった。それでも死者が3名出て、NZの死者の総計は25名となった。

このようにオークランドの感染者が短期間にゼロとなったのは、ロックダウンが効果的だったことに加え、コロナウイルスには人への感染を通してゲノム・シーケンスが変わる性質があることが判明したので、新しい感染者のゲノム・シーケンスを調べ、どのクラスターから感染したかを割り出し、そのクラスターと接触した人々に自宅隔離を求め、陽性反応が出たらすぐ施設に隔離したからだった。なおコロナウイルスのゲノム・シーケンスを割り出す研究が進んでいるのは、アイスランド、英国、オーストラリア、NZ、台湾だと報道されているが、NZ政府は科学を重視し、早くからゲノム・シーケンスを割り出す研究を支援してきた。

ロックダウンが成功したもう一つの要因は、政府がロックダウンで影響を受けた企業や店舗、そして失職した人々に対し、ただちに経済的支援を開始し、国民の不安が緩和されたからだった。

第二の要因は、国民が不安を抱かないようにアダーン首相とブルムフィールド博士が毎日記者会見を開き、的確な情報を伝えたからだ。

第三の要因は、NZの国民は公共の福祉を重視する傾向が強く、アダーン首相が「お互いに助け合い、親切にしあって、ロックダウンの困難を乗り越えましょう」と呼びかけたことに共鳴し、ロックダウンの規則を破る人が少なかったことだ。

第四の要因は、島国で人口が少ないことであろう。

つけ加えれば昨年のモスクへのテロ、今年のコロナウイルスの襲来と二つの国難を見事に乗り切った39歳のアダーン首相への国民の信頼は厚く、10月17日の総選挙で労働党は120議席中64議席を獲得、小選挙区制になって初めて単独で政権を握ることになった。だがコロナウイルスで経済が悪化、国は多額の負債をかかえることになり多難な時が待っているが、国民は次にウイルスが侵入しても、アダーン首相は感染の広がりを防いでくれると信じている。私も以前と同じ生活ができるのは素晴らしいと感じている。